

## 理事長挨拶



一般社団法人 日本創傷・オストミー・失禁管理学会  
理事長 真田 弘美

当学会は、平成 21 年に創傷（特に褥瘡、糖尿病性足潰瘍など、生活に起因するもの）、オストミー、失禁のケアに関する学術的進歩を主眼に置いた学際的取り組みを強化することを目的に、前身の日本 ET/WOC 協会より学会に移行しました。現在、当学会は、医師、看護師、医学・看護学研究者、工学研究者などの様々な領域にわたる学会員で構成された学際的ネットワークを構築し、予防・ケア・治療に関する学術基盤をより強固できたと確信しております。

学会に移行して 4 年経過し、当初掲げていた目標はほぼ達成できました。学術教育委員会では 2010 年からストーマ周囲皮膚障害の重症度を評価するツールの開発に取り組み、2012 年に「ABCD-Stoma®」を完成させました。このスケールは、共通言語で皮膚障害を評価でき、客観的な指標でケアの評価が可能となり飛躍的にオストミーケアの向上に繋がっています。また、学会移行時より看護系学会等社会保険連合に加盟し積極的に診療報酬への提言を行ってまいりました。その結果、当学会専門領域に関連した事項としては、平成 24 年度「在宅患者訪問看護料」「持続的難治性下痢便ドレナージ」「人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算」の報酬が認められております。

更に学会では、会員を対処としたセミナーを定期的で開催し、今年で 9 回目を迎えています。学会では専門的技術を有する看護師のブラッシュアップを積極的に推進し、今や当専門領域は世界へ向けて発信できる学際的な力を蓄えてきたと言えます。

日本創傷・オストミー・失禁管理学会は、これまでの学術基盤を更に躍進させるステージに入ってまいりました。今年度は **4 つの目標**のもとに活動を推進していきます。

1 つ目は **Academic activities** として ABCD-Stoma®ケアの出版とプログラム化を行います。更に Skin Tear（皮膚裂傷）のガイドライン作成に向けての調査を開始します。これらの Academic な活動を通して、創傷、オストミー領域のエビデンスを基盤としたケアの普及を広く図り、療養者の生活支援を積極的に進めてまいります。

2 つ目は **Education** として、皮膚・排泄ケア認定看護師に対する調整力マネジメントを向上させるための生涯教育を開始します。知識と技術面の向上だけでなく、専門家としての能力を発揮するためには、調整力をブラッシュアップさせることが必須となります。この Education を通して、看護学専門領域におけるリーディング学会としての役割を更に強固し、世界の看護学のレベル向上に寄与できると確信しております。

3つ目は **Professional work** として、失禁領域での診療報酬獲得を見据えた活動の推進です。活動推進のために排尿ケアの教育プログラムを制度化し、ケア技術の普及を図り臨床エビデンスの蓄積を行うなどの学術的活動を継続していきます。

4つ目は **Political activity** として、特定行為研修制度への参画を学会活動として推進し、専門領域の拡大と充実を図ります。特定行為に係る研修へ多くの皮膚・排泄ケア認定看護師が参加できるよう学会としての支援を実施します。このような **Political activity** を押し進めることでチーム医療を推進でき、国民の QOL 向上へ寄与できると確信します。

以上のような理念の下に、学術活動を通して、創傷・オストミー・失禁に関する管理を広く普及し、更に専門領域を拡大していくことを目的に、邁進することが大きく望まれております。皆様に於かれましては何卒この趣旨をご理解頂き、ご協力をお願い申し上げます。